

市老人医療制度の存続を！

—市議会へ陳情を提出—

札幌市老人医療助成制度の 存続を求める陳情

(要旨)

札幌市老人医療助成制度を廃止せず、存続させて下さい。

(理由) —要点のみ記載—

- (1) 高齢者のこれ以上の医療費負担増は、医療を受けられなくなる人が増える。
- (2) さらに高齢者の税、社会保険料、利用料一部負担金などが、急激に上って生活悪化を招いており、これ以上の医療費負担には耐えられない。
- (3) 自己負担割合の不均衡が見直し要因だが、例え負担割合の不均衡を是正することがあったにしても、ただちにこの制度を廃止する必要はない。
- (4) 道の制度が残念ながら廃止される下では、一層市独自の老人医療制度が必要。重度心身障害者医療助成制度、乳幼児医療助成制度と同じように老人医療分野においても現行制度を存続させてください。

市独自の老人医療助成制度(68・69歳対象)を08年までに廃止することを今市議会に提案しています。

理由は、①老人医療制度の変更によって負担の不均衡が起こる、②道の老人医療制度がなくなる、③今の年齢だけを対象にする必然性がない、などです。

しかし、道老がなくなり、老人医療制度の改悪で医療費負担が増える中では、独自の制度があることが重要です。負担が増えれば医療を受けられなくなる人が増加するのは、厚生労働省の調査でも示されています。まして税金や国保・介護保険料の大きな負担が続いている高齢者には、医療費負担増は大変です。

市は乳幼児医療費助成を道よりも年齢を高くし、障害者医療助成制度でも独自に負担上限を設けています。老人医療でも独自施策を続けていいのではないのでしょうか。

市老人医療存続陳情の趣旨説明

12月11日(月)午後1時～

市議会厚生委員会で(市役所16階予定)

07年度保育料値上げなし、税制「改革」による保育料値上げはしない アレルギー食へ補助を検討 保育連・保育労組の市交渉



アレルギー除去食実施園に 補助金の検討

長年要求していたアレルギー除去食を実施している園への加算要求に対し、市側は「アレルギーを持っている乳幼児10人以上に対策食を行なっている園に、パート1人分の補助する制度を、予算要求する」と回答。現在対象になる10人以上は、9施設です。

札幌保育連・保育労組は11/21、市の子供未来局と保育の改善・来年度予算要求の交渉を行い、保育士・父母など157人が参加しました。

保育料値上げ、増税による保育料引き上げをしない

来年度の保育料値上げの予定はないことが明らかになりました。(ただし市長選挙後の政策変更がないわけではありません)

また定率減税半減の影響で所得が上がり、それに伴って保育料の引き上げ対象となる世帯が出ます。約2,250世帯が49,000円負担増になるものを、調整し保育料の段階が上がらないようにすると回答があり、参加者からは大きな拍手が起こりました。

保育関係予算は前進

07年度予算が前年度0.5%減の中で子供未来局の予算要求は1.06%増になっています。保育所建設は新築1、改築2、認可整備促進2を予定していることも表明されました。

市立「認定子ども園」は設置する

保育関係者から批判の強い認定子ども園について、市立でも設置を08年度に考えていることを表明。